



炬火を掲げていざ謳う

No.50



我らの泉鳥取

2023年7月10日(月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

食堂にいた大関 武双山

— 専修大学相撲部合宿 昼食は本校食堂 —



1996年頃の食堂スタッフ

泉鳥取高校の食堂は、開校当時から白川さんによって運営されています。平成3(1991)年にご主人がお亡くなりになり、お連れ合いの白川豊子さんが経営を引き継がれました。11期以降、生徒数が減少し、府立高校の食堂に入っていた大手給食会社が次々と撤退する中、泉鳥取高校の食堂は一度も休業することなく、営業していただきました。

2023年現在。白川さんは、泉鳥取高校の他、りんくう翔南、日根野、佐野工科、貝塚南の食堂経営を担われています。その食堂からちょっと珍しいエピソードを紹介しましょう。

1992年、本校食堂で見慣れぬ巨漢数人が3時間目に食事をしていました。当時教職員がお世話になっていたちゃんこ屋のご主人が専修大学相撲部のOBで、彼が連れてきた専修大学相撲部の部員たちです。相撲部員たちはちゃんこ屋で合宿、泉南市体育館で強化練習をしていました。ところが昼食を食べるような食堂がなく、白川さんが、生徒の来ない時間に彼らの食事を引き受けていたのです。

当時の食堂は昼休み以外に生徒が利用することを禁止していました。教職員は生徒の来ない3限目や4限目の空き時間に食堂を利用していたのですが、その日は3限目に相撲部員が食事に来ていたのです。その中に尾曾武人(お



そ・たけひと) くんというひときわがっちりした部員がいました。

ちゃんこ屋のご主人は、彼らとともに食事をしている教職員に対して、「こいつは伸びるよ、学生横綱とったら、すぐにでも角界にデビューする」と断言していました。

相撲ファンならお分かりでしょう。この尾曾君は1992年に大学横綱になり、直後に中退して武蔵川部屋に入門した、大関武双山(2023年現在親方藤島)なのです。幕内最高優勝1回、三賞に輝くこと13回、横綱を囑望されましたが、けがに泣いて、2004年大関で引退しました。現在は藤島親方として、本場所の審判として活動するとともに、後進を育成しています。

今でも白川さんは藤島部屋との交流があり、「武双山」の浴衣生地も大切に保存されているそうです。



1987(昭和62)年当時の食堂 生徒がひしめき合っている